

8-4-14 海岸・海洋専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

海洋分野の新たな市場開拓を主な目的として沿岸域の総合的な管理等に関わる情報収集、情報交換等の委員会を7回(4月、5月、6月、7月、9月、10月、12月)開催した。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、7回の会議のうち、5回はWeb会議とした。

(2) ヒアリング・意見交換会の開催

海岸・海洋セミナーの開催に先立って、地域に根ざした沿岸域管理と海岸域のまちづくりのために建設コンサルタントが担うべき役割等を議論することを目的に、下記に示す4回のヒアリング・意見交換会を実施した。

- ・R4. 8. 25 鈴木 善友氏(宮城県土木部河川課)
- ・R4. 9. 1 森 信人氏(京都大学防災研究所)
- ・R4. 9. 6 横木 裕宗氏(茨城大学)
- ・R4. 9. 29 高藪 出氏(気象庁気象研究所)

(3) 海岸・海洋セミナー(第13回)の開催

気候変動に関連して海岸行政が大きな転換期を迎える中、これからの海岸保全のあり方について考え、建設コンサルタント業務の拡大と役割について議論することを目的としてセミナーを実施した。

- テーマ:「気候変動の影響とこれからの海岸保全のあり方」
- 日時:令和3年11月5日(金)13:00~17:00
- 場所:建設コンサルタンツ協会(Web配信)
- 参加者数:240名
- 講演概要

【講演1】「IPCC WG1 第6次評価報告書と日本付近の気候変動」

気象庁気象研究所 気候・環境研究部 第一研究室 主任研究官 高藪 出氏

IPCC WG1 AR6 と日本の気候変動2020、SROCC(海洋・雪氷圏特別報告書)から“極端現象”などの最新の気候変動の特徴や海面上昇による災害リスクの変化について御講演いただいた。

【講演2】「気候変動による沿岸外力の将来変化と我が国の海岸保全への影響」

京都大学 防災研究所 沿岸災害研究分野 教授 森 信人氏

IPCC AR6 や日本の沿岸域の波浪や潮位の沿岸外力の将来変化、気候変動に対する適応策に関して御講演をいただいた。

【講演3】「沿岸域における適応策の経済評価(海面上昇による浸水影響を対象として)」

茨城大学理工学研究科(工学野)都市システム工学領域 教授 横木 裕宗氏

海面上昇による浸水影響を対象として、沿岸域における適応策の経済評価について御講演いただいた。

【講演4】「まちづくりと一体となった海岸整備 宮城県大谷海岸の事例」

宮城県土木部河川課 総合治水対策専門監 鈴木 善友氏

まちづくりと一体となった海岸整備の取組として、宮城県大谷海岸の事例について御講演いただいた。

【全体討議】

上記の講演者と高知工科大学 システム工学群 教授 佐藤 慎司氏、国土技術政策総合研究所 河川研究部海岸研究室 室長 加藤 史訓氏による全体討議を実施し、気候変動の影響下における海岸保全のあり方について講師の方から多くの意見を頂いた。

(4) RCCM 自主学习教材の改訂について

RCCM 自主学习教材に関し、「河川、砂防及び海岸・海洋」の講義の一部資料の改訂を行った。

2. 次年度の活動について

これまでの活動内容を踏まえ、以下の活動を継続的に行う予定である。

- ・沿岸域の総合的な管理に関わる情報収集と検討課題の把握
- ・海岸の現地視察と意見交換会
- ・令和4年度海岸・海洋セミナーの開催による技術情報の発信
(海岸・海洋専門委員会委員長 神保 正暢)